



薬物乱用防止講座

# 『NO MORE 大麻』



川畑俊貴 先生

1時限目



金子周司 先生

2時限目



木村文隆 先生

3時限目



嶽本野ばら 先生

4時限目



大学卒業後、精神科医となり、平成2年以來、30年以上にわたって薬物依存症を専門として治療に当たる。

精神科医の中でも、特に違法薬物の依存症を専門とする医師は珍しく、最前線の現場で患者とともに依存症と戦い、社会復帰を支援

## 大麻依存症!?

多くの患者さんが「覚醒剤は危なそうだし、怖いけど、大麻なら大丈夫だろう」と考えて使うようになったと話しています。ところが、いつの間にか通院や入院せざるを得ない状態になっている場合があります。治療という観点から見て、大麻と覚醒剤依存症治療の難しさを比べてみると、実は、大麻の方が難しく、手強いと感じています。というのも、覚醒剤依存症患者は、自分で止めたくても止められず、自ら治療を求めて又は家族に勧められて来院することが多いのですが、大麻の場合は、自分で止めようと思った時に止められず、その時**初めて自分が依存症**になっていることに気づいて来院する方がほとんどで、過去には大麻治療に最長で7年間も通院した人もいます。

## 「依存性」の恐怖

大麻の害は大きく分けて2つあります。1つ目は、「**依存性**」です。よくインターネットを見ると、「大麻はクセにならない」等の記事があります。しかし、現実には、「大麻がやめられませんが、何とか治療してください」、依存症の治療を終えた後「大麻を使ってしまわないか不安なので、1回5分でもいいので通院させて下さい」と助けを求める患者さんもいます。この辺りから大麻には確実に依存性があるということが理解できると思います。

## 「記憶障害」の恐怖

2つ目の害は、**脳への障害**です。大麻は、脳の中の「**海馬**」というところの細胞を早死にさせる特徴があるといわれています。海馬は、「記憶のストレージ」の役割をするところですので、これが縮むことで**記憶障害**が起きてしまいます。これが大麻の一番怖いところかもしれません。大麻を使っていた人が「治療してなんとかやめることができ、これからは心を入れ替えて働こう」となった時に記憶障害が影響してしまうことがあります

## 依存症になる要因は・・・

私たちの生活は、ストレスと共にあります。しかし、そのストレスというのは、努力や苦勞をしてやり遂げると気分がスカッと晴れた気持ちになると思います。実は、その時に脳の中では報酬系神経伝達物質といわれる**ドーパミン**が出ているのです。そのドーパミンがストレスを解消してくれるから、気分がスカッと晴れたように感じるのです。

私たちは、日々「**努力→達成→ドーパミンのご褒美**」というのを繰り返しているといわれています。しかし、大麻や覚醒剤、アルコール等の依存性物質を使うと、努力→達成というプロセスを踏まずに、ドーパミンが出てしまうといわれています。そして、簡単にスカッとした気持ちになるので、**クセ**になる傾向にあるのです。また、大麻などの薬物を使用して、ストレスを簡単に軽減できた気持ちになることを脳が記憶してしまうと、それが忘れられず、繰り返し使うようになってしまい、これこそ、大麻依存症の始まりだと私は考えています。

## 大麻は体に良い!?

海外では実際に**医療大麻**が使われています。

医療大麻は錠剤で、製剤に工夫があり、一定時間かかって体内で溶けるようになっているので、血中濃度が上がるのをなだらかにコントロールしてくれます。ところが、吸煙する大麻は、肺にはりめぐらされた血管から瞬間的に取り込まれ、血中濃度を急に上げてしまい、その結果、脳に悪影響を及ぼします。医療大麻があるから大麻が安全というわけでは絶対にありません。胃薬でも鎮痛剤でも用法用量を守っているからプラスになるのです。それを守らないのならば、どんな薬だって毒になります。医師が適切に処方して、患者が適切に使用することが大事なのです。

まず、大麻を使用する前に、あなたの大切な人たちに相談してください。大麻を使用する「**きっかけ**」は、人との「**つながり**」の中で始まることが多いといわれています。

友人やグループなどから大麻を勧められたり、誘われた時というのは、まさに大麻グループの群れに「**入るか**」「**断るか**」その選択を迫られている状況であるといえます。しかし、大麻を使うということは、使わない人や大切な人と「**偽りのつながり**」を持つことになり、それがあなたたちの人生をずっと苦しめていくことになるのです。時には、**大切な人を失う**結果になってしまうこともあるでしょう。

だから、使う前に相談してみてください。大切な人であれば「**止めなさい**」と言ってくれるはずですが、その力をもらって、大麻グループの群れに入ることをあなた自身で止めて下さい。大麻を使わない人の中に、あなたにとって**大切な人**が必ずいるはずですから。





京都大学薬学部を卒業、薬学博士  
主に「痛み」に関係する生体メカニズム  
や創薬の研究を中心に行う。社会問題  
となった危険ドラッグ等依存性薬物につ  
いても多数の事件事故の捜査・裁判に  
協力する。趣味は登山やスキー等多岐  
に亘り、現在は股関節に人工関節を置  
換してまで趣味を楽しむ永遠の探求家

医学的

## 精神依存性!?

大麻は強力な麻薬である覚醒剤やヘロインよりも弱いものの、  
明らかな**精神依存性(耽溺性)**を有しており、使用が容易に  
常習化して、薬物を手に入れるために金銭をつぎ込んだり犯罪  
に走るような深刻な事態を招く可能性があります。依存性薬物  
は、本来ならば努力を重ねて得る報酬の快感よりも強い快感  
(ドーパミン放出による)を使用者にもたらします。特に、人間の  
記憶は、報酬や快感で強化されると決して忘れられることのない  
記憶として定着されますので、使用者はその快感を求めて再び  
大麻に手を出してしまう傾向にあります。

## 幻覚作用がある!?

幻覚剤を除いた他の覚醒剤やヘロイン類等の依存性薬物に  
ない**「催幻覚」作用**が大麻にはあります。幻覚というのは、日  
常生活で実感することのない現象ですが、夢のように非現実空  
間の中に自分が置かれることで、色彩や音への感覚から物体  
の大きさの認識まで様々な感覚の変調を来します。これが、本  
人にとってはストレスからの解放や快感の一部になりますが、  
幻覚を起こした場合、人とのコミュニケーションや車の運転など  
が必要な社会生活をする上で、危険な状態であることは明らか  
であると言えます。

## 受動喫煙による被害!?

タバコ喫煙の場合と同様に、大麻の喫煙による使用は受動喫  
煙を介して周囲の人にTHC(テトラヒドロカンナビノール)摂取を  
招くといわれています。胎児脳の発達に対するTHCの悪影響  
も多数の動物実験で明らかになっており、妊婦の直接喫煙は  
勿論、受動喫煙も危険であることに注意が必要なのと同じです。

## 認知症リスクが高まる!?

大麻の常習的、又は長期使用による精神の変調に関する研  
究は多数ありますが、脳の一部が委縮することによって、無感  
動や認知症の原因となると考えられています。

Message for You



社会的

## 事件・事故増加!?

大麻の作用は、幻覚を除けばアルコールと良く似た中枢  
抑制作用です。しかし、幻覚作用は認知・判断能力を変調  
させる結果、違法又は反社会的な行動をとる危険性が増し  
ます。それが、薬物による責任能力の喪失と判断されてし  
まうと、処罰することも難しくなるのが今の日本の現状です。  
そういった薬物を社会として認めることは、様々な事件・事  
故の増加による悲劇をもたらす可能性があります。

## 交通事故のリスク!?

大麻の摂取が自動車運転に与える影響については、多数  
の研究から危険性が実証されています。その危険性はアル  
コール(酒酔い運転)の場合とよく似ていますが、アルコ  
ールと異なり運転者の大麻使用は見かけ上、他人から気付か  
れにくく、さらに、大麻使用の影響下にある事故や犯罪の物  
証が鑑定といった観点からも科学的に立証することが極めて  
困難なので、事件化が難しいのが現状です。しかし、大麻  
の摂取が交通事故の因果関係に大きな影響をもたらすと  
いっても過言ではないのです。

## ゲートウェイドラッグ!?

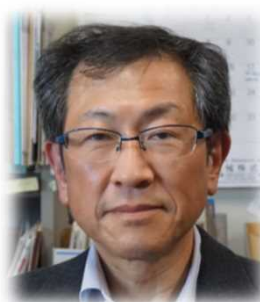
大麻は、熱帯圏にある国などで大量に栽培できるため、  
安価で流通しており、使用も覚醒剤の注射等に比べて喫煙  
という心理的にハードルが低い形態をとるので低年齢層に  
対して最初のエン트리ドラッグとして悪用される傾向がうか  
がえます。そして、一旦大麻を覚えてしまうと、大麻を手放  
せなくなることはもちろんですが、使用者は**より強い快感  
や陶酔感を求めて**覚醒剤などの悲惨な結果をもたらす  
高価な違法薬物に手を出してしまうことが考えられます。

## 何故大麻を認める国がある?

大麻を嗜好品とみなして当局が流通を制御することで、よ  
り破壊的な麻薬の蔓延に対策を講じたり、反社会的勢力へ  
の資金の供給を減らしたりする目的で税金を徴収しようと決  
断した国もあるようです。これらの国等では、麻薬の生涯経  
験率が日本の1%と比べて30~40%と非常に高く、医療  
や警察に費やすコストを減らすために**仕方なく大麻を解  
禁**しているという実情があります。以前、私が米国東海岸で  
最初に嗜好用大麻を認めたワシントンD.C.に所用で訪れた  
際にも、街中で大麻を堂々と売る店はなく、社会の大多数  
から容認されているわけではないと実感した経験もあります。

薬物に手を出さないためには、欲求を満たすための**目標**  
を立てることが大切です。大きな目標でなく、目の前の小さな目  
標を一つ一つクリアしていけば薬物のない人生に繋がります。





東京大学理学部生物学科を卒業し、大阪大学大学院医学系研究科准教授を勤める。平成28年6月、木村文隆准教授を中心とする研究グループは、脳の神経回路形成のメカニズムとともに、大麻の成分「カンナビノイド」が悪影響をおよぼすメカニズムを世界で初めて科学的に立証

エンドカンナビノイドとTHCの働きの違いは？



カンナビノイド VS エンドカンナビノイド

「カンナビノイド」とは、大麻に含まれる成分をいいます。その数は60種を超えますが、主な成分はTHC(テトラヒドロカンナビノール)、CBD(カンナビジオール)、カンナビノール(CBN)です。大麻の毒性の大部分はTHCによるものです。「エンドカンナビノイド」とは、人の脳内で作られる物質で、「内因性カンナビノイド」とも呼ばれます。元来、人間に備わっており、脳の機能、神経回路形成に必要不可欠なものです。

神経回路が削られる!?

私達のグループは、神経回路が形成されるメカニズムに関連して、大麻のカンナビノイドが脳に悪影響をおよぼすことも発見しました。カンナビノイド、特にTHCは、困ったことにエンドカンナビノイドと同じような働きをしてしまうのです。エンドカンナビノイドはCB1という受容体に結合して、不要なシナプスを適度に弱めたり、刈り込んだりして整えてくれます。この刈り込む作用を「退縮」といいます。ところが、なんとTHCもこのCB1に結合できてしまうのです。エンドカンナビノイドは不要なシナプスだけを刈り込みますが、THCは不要なシナプスだけでなく、必要なシナプスまでも見境なく刈り込んでしまうので、シナプスを整えるどころか必要な**神経回路も無くなってしま**うのです。実際にアメリカでTHCを使った実験を行ってきました。実験で使用したのは合成したTHCですが、**大麻由来のTHCでも同じ結果**になります。合成だからこの結果になった、大麻由来だから別の結果になるということは科学的にありえません。そのほかに、実験ではTHCがシナプスを退縮させるだけでなく、LTD(Long term-depression)というのですが、シナプスでのパトン渡しの効率を長期的に抑え込んでしまうことも分かりました。シナプス自体は残っていますが、機能がずっと落ちた状態になってしまいます。

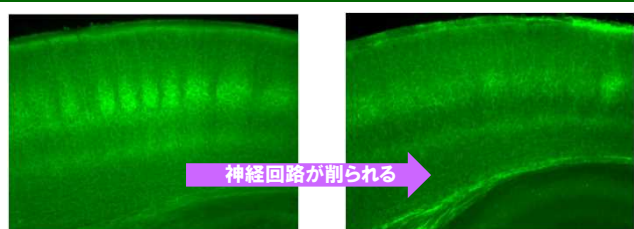
シナプスって？

大脳皮質が働く時、神経細胞が次の神経細胞に「情報」というパトンを渡し、また次の神経細胞にパトンを渡すというプロセスで行われています。このパトンを渡す時のつながりを「シナプス」といいます。これを繰り返すとパトン渡しの効率が良くなったり、シナプスが増えたりします。

大麻は脳をむしばむ

CB1というのは、大脳皮質をはじめ脳のいたるところにありますので、大麻を使うと、大脳皮質だけではなく、脳全体に効いてしまいます。大脳皮質では、その構造はどこもほぼ同じなので、大脳皮質の全ての機能を落としてしまうのです。大人が大麻を使えば、シナプスを子供の時のように伸びきっていないような状態に退縮してしまうでしょう。生まれてから大人になるまでにせっかく成長し、獲得した脳機能が落ち込んでしまった状態と同じですから、幼稚化といえるかも知れません。特に、青少年期は脳を作っている段階で、人間として重要な感情や人格、知能といったものが作られている最中なので、もし、青少年が大麻を使ったら考えると恐ろしいことです。また、記憶を担当する「海馬」にもCB1がありますから**記憶に影響**が出ますし、脳の中にある「側坐核」という快楽中枢には特にCB1が沢山存在するので、使えば気持ちよくなるという効果もあるのでしょうか。**大麻は、薄くまんべんなく脳全体をむしばんでいく**というイメージです。そして大麻を使えば使うほど**神経回路は削られて**いきます。

木村准教授が明らかにしたカンナビノイドにより大脳皮質の神経回路が削られた画像



画像提供：大阪大学大学院医学系研究科 木村文隆准教授  
～マウスにカンナビノイドを投与して反応を見る実験～

正常なマウスの大脳皮質(左の画像)に比べ、カンナビノイドを投与したマウスの大脳皮質(右の画像)は不要な部分だけではなく、**必要な部分まで神経回路が削られてしまった**ことがわかる。

大麻は、脳をむしばみ、脳に悪い影響を与えていきます。人間にとって最も大事なものは大脳皮質の中の前頭葉です。前頭葉の発達は、聴覚や触覚等と比べ長期にわたるため、思春期を過ぎ、30歳前後まで発達を続けていると考えられています。

特に若年層が大麻を使用することは、大脳皮質のまさにその**成長期**にその発達の可能性すら閉ざしてしまう恐れがあります。ですから、大麻には**絶対に手を出さない**で下さい。決して、**いい事なんて何も無い**のですから。



『下妻物語』などデビュー以来、ヒット作を連発し、人気作家の地位を不動にしていた「獄本野ばら」と「獄本稔明」氏

大麻使用をきっかけに人生の歯車が狂いはじめ、警視庁で2度の逮捕に至り、現在も大麻依存症治療のため通院を続ける元大麻乱用者

そして、あの時は微量の大麻を吸っただけなので、こんなものかもしれないと思いましたが、テレビや映画で見ると、「もっと吸えばもっと**ブツ飛ぶ**感覚があるだろう」と考えるようになりました。更に、一度手を付けてしまったら、この際、その感覚を知りたいとまで思うようになり、2回目以降は多量の大麻を渴望するようになってしまいました。

## 逮捕。そして失ったもの..

作家という職業は、薬物の履歴があっても一番、世間が寛容に扱ってくれる業種だと思っています。1度目の逮捕では裁判の後にすぐ新刊が出たのも事実です。勿論、許せないという人、改心せず一生やり続けると思う人がいるのは分かっています。そして、本の売り上げも非常に落ち込みましたが、それは仕方のないことです。つらいのは、逆にそういうことを気にしない、応援すると言ってくれる人達との関係性です。

気持ちに偽りは無いのですが、それでもやはり、逮捕以前の関係には戻れないのです。なぜなら、そこには小さな溝が出来ているからです。それは、親や兄弟でも同じです。

**信頼しようとしてくれる人に信頼を抱かせることが出来ない。**もしかしたら、前科よりこれが一番苦しい現実なのかもしれません。

## 薬物依存症?!

大麻は、諸説ありますが、他の薬物と違って依存性が低いと言われています。

しかし、依存という言葉がくせものであり、関心、執着はあると思います。僕が思うに、大麻「関心症」なのだと思います。勿論、関心症では意味不明なので、一般的には依存症なのだと思います。

常習するようになってから大麻草の成分、THCの化学式等を猛烈に勉強しました。2度目の逮捕は他の薬物ですが、ハーブしかやらず、リキッドなどは見向きもしませんでした。

薬物依存症の主治医の先生曰く、「**1度覚えた快楽は、遠ざかろうと脳から絶対消えない**」と。全くその通りで、今でも大麻の夢をみます。

しかし、徐々に関心や執着は減ってきました。例えば、恋人への依存と執着は違う感情だと思います。つまり、依存と違って執着は自分で克服が可能なのではないかと。自分がどっちなのかを考えるのは時間がかかりますが、それをキチンと詰める機会を持つのは大事だと思っています。

大麻は、医療用もありますので、効用の全否定は出来ないと思います。僕の時代と違い、ネットで簡単に手に入るようです。

若年層に広がるのは当然だと思います。しかし、ハマるとそのためだけに生きるような状態にさせられるものであるのも経験則から確かです。

最近、若い人はタバコは吸わない。深酒けもしない。モラルではなく、それが「**ダサイ**」という美意識を持ち始めていると思います。

親や大人はダメと頭ごなしに言うことしか出来ません。もし、友達の薬物使用を止めさせたいとか、誘いを断りたいのなら「**大麻なんてダサイ**」と言うのが最も効果的だと思います。

実際、現在大麻が合法の国では、大麻は年寄りの嗜好品と捉えられる傾向にあり、若い人には人気なくなっているようです。

害の有無より、リスクを冒してまで使うのは**カッコ悪い**と、僕も最近ようやく思い始めています。皆さんもフラットな気持ちで一度、考えてみて下さい。

## きっかけ

常習するより以前にも使用した経験はありました。

その時は使う人が居合わせ、試させてもらったものの、その後、会う機会がなく、そのまま自分も求めませんでした。

常習は作家になって急に交際範囲が広がったことから、色々な集まりに誘われるようになり、そこで**大麻を吸う人と知り合う**ことになりました。その人は次に会った時も分けてくれましたが、3回目は断られたので、それにより自力で入手できるルート、いわゆるプロの売人を探し、買い始めました。海外旅行などで経験する人も多いと思いますが、そういう人が皆、常習者になる訳ではありません。簡単に手に入るものではありませんし、自分で買いたす頃には、もう引き返せないのです。大麻には自生大麻という自然に生えているものもありますが、そうはいっても偶然大麻を使ってしまうということはないと思います。僕の場合も友人からの勧めというよりも、友人が「これ(大麻)吸っていい?」と聞いてきたので、薬物に関して拒絶感がある人であれば断ったでしょうが、好奇心というより損得勘定が働いてしまい、「一生に一度くらい経験してみたい」「1回経験しておく、軽い武勇伝みたいに誰かに自慢できるかもしれない」等と思ってしまったのです。そんな**友人の一言がきっかけ**で僕は大麻に手を出してしまったのです。

## なぜ大麻を選んだのか?

僕が10代の頃は音楽でも文学でもドラッグを崇拝する内容のものが多かったのです。特に海外のものはそうで、その**憧れ**が「自分も経験したい」という**好奇心**につながりました。

思春期は反抗的なので「悪」のイメージがあるものほど惹かれるものです。その時代、10代が手を出せるものはシンナーくらいですが、それには興味はありませんでした。

大麻を買いたしてからは覚醒剤の入手も出来たのですが、試そうとは思いませんでした。その理由は、覚醒剤にはカッコいいイメージが持てなかったからです。

困窮して逃避した...等とよく聞きますが、それは好奇心や憧れという本心を自分で誤魔化しているのだと思います。まるで、切羽詰まって犯す窃盗と、勇気を試す万引きが違うようにです。

## 初回の感覚って..

人によると思いますが、正直**よく分かりませんでした**。薬理作用を独学で学び、自分なりのイメージを持っていたので、もの凄く世界観が変わるものと認識していたのに、それ程効果は感じませんでした。ただ、翌日思い返すと、幻覚・幻聴こそありませんでしたが、朝方まで話し続け、テンションが高かったことを思い出したので、結構効いていたのかもしれませんが。





～薬物依存症と闘う元大麻乱用者～

# 手記

～何故、自分は大丈夫なのか？

根拠はどこにもない～

WRITER 作家

嶽本野ばら



原作者  
たけもと  
嶽本野ばら氏

かつて「乙女のカリスマ」と呼ばれ、数々のヒット作を世に送り出し、映画化もされた人気作家「嶽本野ばら」こと嶽本稔明氏  
一方で、薬物乱用と二度の逮捕  
現在、薬物依存症と闘いながら、その心境を語る。

# たけもと 嶽本野ばら

2005年くらいです。著作が映画化され、収入と共に、忙しさを人付き合いの煩わしさが増加し、僕は大麻に手を出しました。

結果、2007年に大麻取締法違反で逮捕、執行猶予になったものの、2015年、麻薬取締法違反で逮捕されます。

二度目は危険ドラッグ。全く異なるという理解しつつ、ハーブの煙を吸い込む摂取法が大麻の感覚を呼び起こさせた。代用品を探し、常用し続けたのですから大麻への依存は失せるどころか増加していたことになりました。



と、他人事のようにですが、二度目の逮捕後も、僕は自分が薬物依存者であると、思っていました。

ここ一年くらいです。依存を認識できるようになったのは…。

通院し始めた精神科の先生に言われました。

「君はハーブにしか興味を持たなかったんだね。リキッドや錠剤には嫌悪感を抱いていた。それなら大麻依存だよ。」

月に二度、通院するようになってからも、克服を試みている

## 何故、自分は大丈夫なのか？根拠はどこにもない

と周囲にアピールするのが目的なだけ、依存症ではない、大麻には依存性がないのだしムダとか思えませんでした。

用いるようになってから、大麻に関しての学術書も読み漁りましたし、誰よりも心得ている自負があつたので…。

先生が愉快な人でなかったなら通院は続かなかつたでしょう。行きたび、先生は「ドフトエラスキーヤトルストイの悪口を言いました。」

実はこれが先生の作戦でした。

「一度、覚えた快楽はちよつとやそつとで消えはしない。完全な消去はあり得ない。脳とはそういうものなのです。でも、薄めることはやれる。」



長い時間が必要ですが。失恋の痛みや愛する人との死別の悲しみと同じです。」

紅茶の茶葉の香りが鼻腔をくすぐるだけで、常に僕は大麻のことを思い出していました。夏に生い茂る樹木の葉からも大麻草に似た匂いはする。

強要されたのではなく、自ら進んで欲したので、大麻を知らないまま人生を終えていた。それは狭隘だつただろうと、多くの使用者がそうであるよう、医療として役立っている国もある。ドメリットばかりを引き合いにし、歯止めが効かなくなる。常習性のドメリットは軽んじていた。







「本当にコントロール出来るなら、個人的には目を瞑っていいとも思いません。でも長年いろんな例を見てきた結果、不可能だと結論しています。医者としてね。30年間遠ざかったのに、一瞬の気の緩みでまた使った。30年間もコントロールしたと自信を持つていたのに以後、前より頻度が増し、幻覚まで出始め、廃人同様の人も私の患者さんにはおりますよ。」

人生を破滅させる危険なものとして大麻禁止は呼び掛けられる。だけど真に危険なのは意志の弱い者はそうだが、自分は大丈夫と決めつける己の都合よさにあるのではないか？



何故、自分は大丈夫なのか？  
根拠はどこにもない。

学術書で知識をつけ誰よりも詳しい？それを読み漁る時点でもう、異常ではないか。

意志など基準にはならない。  
頑強な意志すら一蹴し、肯定

の論理を組み立てさせてしまうのがドラッグであり、大麻もそれなのです。

これを書くには、躊躇いがありました。快樂の輪郭はおぼろげになつてくれたけれど、もう絶対に欲しないとは誓えない。

それに、留置所の生活、世の中の色眼鏡の記憶の回想は、とてもない苦痛をもたらす(時間が経てどそれらは消えない)。

ほとんどの人が今もやつていると思つているだろうし、僕が記せば偽善の極み、同情的だった人をも敵に回すことになる。

## 大麻がなくても人は生きていける



それでも書いたのは、大麻への臆病さを持つ人のほうが、自分を過大評価する人よりか、聡明なことを伝えたかったからです。

使える機会を見逃すことは損ではない。摂取量が増し、売人からすらそんなやつていたら死ぬぞと心配され、これで死ぬなら本望と思つていた。過去は変更できないけれど、それを汚かつたと認識し直せるのなら、僕は偽善者になろうと思いません。  
大麻がなくても人は生きていけるのですから。



たけもと の たけもと としあき  
**嶽本 野ばら(本名:嶽本 稔明)**

D.O.B.:1968年1月26日生

Hometown: 京都府宇治市

Job:作家

Masterpiece: 「シン」「下妻物語」「エミリー」「ロリキタ。」等

Criminal Record:H19 大麻取締法違反

H27 麻薬及び向精神薬取締法違反